



No.8

2024年9月26日 発行

JR東労組新幹線協議会

発行責任者 近藤 隆行

幹本申2号 東北新幹線で発生した列車分離の原因究明と対策の実施を求める緊急申し入れを本日（25日）提出！！

1. 2024年9月19日に発生した3006B列車U+Z編成列車分離した事象の原因を明らかにし、対策を講じること。
2. 今回の事象以降の職場の声を把握し、発生している課題を明らかにすると共に職場の不安等を解消すること。

2024年9月19日、東北新幹線 古川～仙総所間において3006B列車U28+Z12編成が列車分離し緊急停車するという重大な事象が発生しました。約315 km/hで走行中に列車分離した今回の事象は、正常に緊急ブレーキが動作したとはいえ脱線の恐れもあり、JR東労組は死傷事故につながる重大な事象と認識しています。

その中で、東北本部長は定例会見で原因不明のまま運転再開したことに対して「**安全性への不安**というのは話をごっちゃにしている。安全に停車したし、お客さまの生命に重大な支障が及ぶ事象もなかった」とし、また相次ぐ新幹線の事故・事象に対し「**40年以上経過して、さまざまな部品や構造物は少しずつ劣化している。安全に運行できるように修繕、取り替えといった補修作業に努めているが、たまたまそういった事象が今年に入ってから続いている**」と述べたという新聞報道が出されましたが、これまでの事故・事象を重く受け止めているのかと疑念を抱かずにはられません。そして現場で安全輸送を提供するために必死に業務にあたっている組合員・社員に対する言葉とは思えません。

新幹線が併合運転を開始してから、連結の際の併合不良などはあったものの、走行中に分離したという事象は記憶にありません。職場からは「**前代未聞の事象が発生した**」「**走行中に分離したなど聞いたことない**」「**分離したら緊急ブレーキが動作するのは当たり前だが大事故につながりかねない事象**」「**何故保全命令が出ないのか**」など、高速で走行する新幹線が分離するという、今まで経験したことのない想定外の事象が発生したことに不安の声が相次いでいます。

また、「**何故、分離したのか原因を明らかにするべき**」「**原因がわからないのに併合運転を継続しても本当によいのか**」など、原因が分からないのにも関わらず、併合運転が開始されていることに驚きと不安の声が多く出されています。

重大事故・事象が相次いでいることに対し、労使が強い危機感を持ち、新幹線の安全を再確立するために、会社に申し入れを行いました。

安全・安心、そして信頼を取り戻すために職場からの声を集約します。意見をお聞かせください。